

令和7年度 学校関係者評価実施報告

学校番号	3	学校名	静岡県立浜松視覚特別支援学校	記載者	大橋 早苗
------	---	-----	----------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
楽しく学び思考力を高める授業づくり	ア 視覚障害教育の充実と基礎学力・課題解決力を身に着ける授業実践	・個々の見え方に応じた支援を講じながら基礎学力をつける授業づくりをする。	A	A	
		・視能訓練士や歩行訓練士の指導助言を受け手立てを講じたり教材づくりに生かしたりする。	A	A	
		・教育的ニーズに応じた教育課程を編成し、適切かつ効果的に実施する。	A	A	
		・つながりと切れ目のない効果的な指導、支援を行い指導目標を達成することができる。	A	A	
		・「子どもが主語」の視点に立って授業を設計し、適切な目標設定および指導展開、学習評価を重ね、幼児児童生徒の学習の解決に迫ることができる。	A	A	
		・授業研究での学びを日頃の授業実践および生活支援に活かす。	A	A	
効果的な学びのためのICT機器・情報等活用力を育てる授業づくり	イ	・ICT機器・情報活用力が向上し、担当する児童生徒に1つ以上の新しい機器やアプリの使い方を伝えることができる。	A	A	
		・ICT機器等を利用した音声図書や図書室等の活用により本に親しむことができる。(幼児児童生徒)	A	A	・ICTに早くから関心をもつことで将来の進路にも可能性が広がるので、ぜひ進めてほしい。
安全で安心な学校生活	エ 健康・栄養に関する知識と理解を深め体力向上につながる活動の充実	・「キャリア教育発達段階表」の活用を含む多様な進路学習が自己理解や社会参加に向けた意欲を引き出すことができる。	A	A	
		・自身の体や心の健康について把握し、生活習慣を見直している。(幼児児童生徒)	A	A	
		・幼児児童生徒の心身の健康を把握し、実態に応じた指導をする。	A	A	
		・困ったときや不安なときに教師や家族、友人等身近な人に相談できる。(幼児児童生徒)	B	A	・情報として、ZOOMによる中高生の交流などもあります。

様式第5号

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
		<ul style="list-style-type: none"> 食について理解を深め、食材の栄養や食事に対する関心が高まる。(幼児児童生徒) 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 食について少しでも理解できていくことが重要だと思う。 六葵祭の発表でも生徒からの発言があり、定着してきていると感じる。
	オ 緊急対応力と支援活用力向上に向けての避難訓練の充実及び防災体制の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練や防災学習では防災意識を高め主体的に動くことができる。(教職員・幼児児童生徒) 	A	A	
<ul style="list-style-type: none"> 防災マニュアル等を見直し、避難時や緊急時の対応を理解できる。 		A	A		
<ul style="list-style-type: none"> 防災学習や体験的活動により緊急時に備えた準備ができる。(教職員・幼児児童生徒・保護者) 		A	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域、保護者との体験会などの取組みはよい。 	
	カ 仲間と協働し達成感を共有する経験及び自己肯定感を高める活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 人権意識が高まり、相手の人権を尊重したかわりができる。 	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 自分の得意なことや仲間のよいところに気付くことができる。(幼児児童生徒) 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師などを取り入れてもいいのでは。
	キ 視覚障害教育センターとしての相談支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 外部専門家や教育機関と連携を取り、相談者に必要な情報や支援を提供する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 以前 ZOOM 会議(教育・医療・行政)で、専門的な教育支援の実践がアピールされていた。一般校への支援がもっと気軽にできる体制が整うと良いという話もあった。
		<ul style="list-style-type: none"> 対象者に応じた内容で、視覚障害やその支援方法について理解推進活動をする。 	A		
成長を支える支援体制	ク 交流及び共同学習や地域資源を活用した活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 交流及び共同学習における個々の目標を明確にして取り組む。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 農業体験は、短い時間だったが、幼児児童にとって良い体験であったと思う。特に収穫体験がよかった。 最近、静岡大学の学生主体ボランティアサークルが企画し、視覚障害者の方に大学へ来ていただき、学生や職員の障害理解を促す取組を行った。今後、静岡大学浜松キャンパスを活用したイベント等も一緒に検討したい。 地域自治会、企業との共同取組みがあることで、生徒の視野も広がり、良いと感じる。
		<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活用し幼児児童生徒の経験や視野を広げる。 	B	A	

様式第5号

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
	ケ 保護者、地域、関係機関に対する教育活動の発信	・ホームページや学校公開、たより等で本校の教育活動の様子が理解できる。(保護者及び外部の意見)	A	A	
		・学校の様子や各種案内の発信を工夫することにより視覚障害教育の理解と推進を図る。	A	A	
	コ 自身の強みを生かし日々の対話を大切にしながら協働できる職場づくり	・自分とは異なる多様な意見に対して肯定的に受け止め、建設的な意見のやり取りをし、同僚と協働しながら業務を進める。	A	A	
		・聴覚特別支援学校との連携ができ、魅力ある寄宿舍づくりをする。	A	A	